

一人一人のキャリア発達を目指して～重複障がい学級の取組を中心に～

熊本県立荒尾支援学校

1 はじめに

本校では、キャリア発達の視点を大切にし、3つの力（「かかわる力」「きめる力」「はたらく力」）の育成を目指した教育活動を展開しています。特に、平成23年度よりキャリア教育の推進を研究テーマとして掲げ、実践研究を重ねてきました。6年目となる平成28年度の研究においては、本校作成の「キャリア発達における育てたい一覧表」を基にした目標の設定、学習活動の設定と体系的な学習評価を行う「ARA・SHIの教育プログラム」の構築に取り組みました。

2 重複障がい学級における取組の概要

本校重複障がい学級は、小学部重複障がい学級、中学部重複障がい学級、高等部重複障がい学級から構成されています。

平成25年度までのグループ研究において、「生活マップ」や「土日スケジュール表」といったツールの作成と活用に取り組みました。「生活マップ」とは、本人を取り巻く関係者について整理したものであり、「土日スケジュール表」とは、休日の過ごし方について時系列でまとめたものです。また、重複障がい学級における「かかわる力」「きめる力」「はたらく力」の概念について、以下のように整理し、教師間で共通理解を図りました。

かかわる力：周りの人と触れ合い、やりとりをする。人や場の雰囲気を感じて応える。

きめる力：自分の動きで選択する。好きなものや活動がある。

はたらく力：できる動きで取り組み、自分の役割を果たす。様々な経験をする。刺激を受容し、働きかける。

平成26年度以降のグループ研究においては、それらのツールに年間指導計画や学習内容表等に加え、「Tスタイル」として冊子にまとめた上で、「Tスタイル」に基づく授業づくりに取り組みました。そして、これらと並行して教師の専門性向上に向けた取組および児童生徒のキャリア発達についての検討を重ねました。

3 取組の内容（「Tスタイル」に基づく授業づくり）

(1) 計画

重複障がい学級では、児童生徒の丁寧な様子観察と個に応じた目標の設定、きめ細かな手立てを重視しています。

平成28年度は、「年間指導計画」および「学習内容表」を作成し、いつ、何を学ぶのかを明らかにしました。そして、集団で行う授業を中心に「指導略案」を事前回覧し、どのように学ぶのかについて職員間で共通理解を図りました。右の表は、「学習内容表」の一例です。

自立活動(集団)	小・中・高		時数	1.0/W		
指導目標	個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基礎を培う。					
育てたい力	か：友達や教師と一緒に、あるいはやりとりをしながら活動することができる。 き：やり方を理解したり、ルールを意識しながら活動に取り組むことができる。 は：自分の得意な動きを生かして、意欲的に活動に取り組むことができる。					
期 月	題材	期間	時数	主な内容	自立の内容	授業形態
通年	ARA・SHI体操			音楽に合わせて、教師と一緒に体を動かす。活動への意欲を高める。	(健)(心) (人)(身)	
前期	6 遊具で遊ぶ	6月7日(水)～ 6月28日(水)	4	エアベッド、ボールプール、クッション列車、すべり台等の好きな遊具で遊ぶ。	(人)(身)	全体 [フレ他]
	7 ゲームをしよう	7月5日(水)～ 7月19日(水)	3	A: ルールや勝敗を意識しながら魚釣りやボウリング等を行う。 B: 友達や教師と一緒にじっくり風船遊び等を楽しむ。	(人)(身) (心) (人)(身)	グループ [A: プレノ B: 教室]
	8.9 作品を作ろう	8月30日(水) ～9月27日(水)	5	貼り絵やステンシル、マッピング等を用いて、壁面や看板、旗等の制作を協力して行う。	(理)(人) (身)(心)	全体 [フレ]

(2) 実行

毎年、グループ研究の対象となる授業を設定し、授業の充実を目指しました。中でも、平成27年度は集団の学習を、平成28年度は個別の学習を取り上げ、「育てたい力」と自立活動の視点を大切に、授業を展開しました。

(3) 評価

各授業の後には、児童生徒のどのような姿が見られたかを職員間で出し合うようにしました。その方法として、指導略案の事後回覧、放課後ミーティングが挙げられます。その際、個別の目標が達成されたか、「育てたい力」と自立活動の視点からどのような姿や変容が見られたか、を指標としました。

(4) 改善

日々の授業改善や教材研究はもとより、一人一事例研究、外部講師招聘研修、グループ内事例検討会を計画・実施し、専門性向上を図りました。

また、「育てたい力」について再確認する機会を設け、一覧表のさらなる充実を図りました。右に、重複障がい学級に在籍する児童生徒の「キャリア発達における育てたい力一覧表」の試案を示します。これらの検討の過程で、目の前の児童生徒の様子と目指す姿がより明確になりました。

4 まとめ

重複障がい学級に在籍する児童生徒にとって、「その人らしい生き方を見つけ、その人らしい生き方ができるように支援する教育」がキャリア教育と言えます。そして、児童生徒の少し先の将来を見据えて、今、どのような力が必要かを考える視点を取り入れることがキャリア発達を促す視点と考えることができます。

一連のグループ研究を通して、各教師は児童生徒一人一人のキャリア発達や保護者をはじめとする関係者との連携について、より一層意識するようになりました。また、指導略案を活用した事前および事後の検討を通して、教師間で共通理解を図った上で実践することができました。今後は、これまで重複障がい学級として大切にしてきた視点や取組を継続しつつ、児童生徒一人一人に応じた学習や指導・支援についてさらに追求していきたいと思えます。その中で、児童生徒一人一人の変容の把握についても、引き続き工夫を重ねていく予定です。

重複・重複障がいのある児童生徒のキャリア発達における「育てたい力」一覧表（試案）

基本的能力

生活にかかわる基本的スキル獲得の時期	1	2	3	4	5
基礎的・汎用的能力	好きな活動を見つめる	好きな活動を思いやり楽しむ	好きな活動を通していろいろなものに興味をもつ	好きな活動を選び、楽しむ	好きな活動を通していろいろなものに興味をもつ
社会的な生活力	余暇を楽しむ力	余暇を楽しむ力	余暇を楽しむ力	余暇を楽しむ力	余暇を楽しむ力
地域の中で暮らす力	家族となじみの場所へ行く	家族と近くの施設に出かける	地域の様々な施設を利用できる	地域の様々な施設を利用できる	地域の様々な施設を利用できる
人とのかわり	身近な人がおわり、語りかけ	身近な人がおわり、語りかけ	身近な人とのやりとりを楽しむ	自分や友達の名前を知り、自分と相手の違いを認識し、様々な人とかわること	自分や友達の名前を知り、自分と相手の違いを認識し、様々な人とかわること
集団における活動	学習グループに参加できる	学習グループでの活動に参加できる	様々な規模の集団活動に参加できる	集団活動に参加し、みんなと同じ活動に取り組むことができる	集団活動に参加し、みんなと同じ活動に取り組むことができる
意思表現	快/不快を表現する	要求/拒否をする	身近な人に自分の方法で要求を伝える	身近な人に自分の方法で意思を伝える	より多くの相手に自分の方法で意思を伝える
あいさつ	あいさつへの反応ができる	あいさつや返事を返す	身近な人に自分からあいさつをする	身近な人へのあいさつが習慣化する	初対面の人に自分からあいさつができる
目的に向かって行動する	目に見えるものに向けて行動する	事象の因果関係が分かる	目に見えない目的(未来の予定)に気づき、見通しをもつことができる	具体的な目標を選ぶことができる	具体的な目標を選ぶことができる
自己選択	選ぶ/活動に取り組みることができる	好きなことや活動などを選ぶ	状況や関心に応じたものを選択	選んだものの選択ができる	状況や関心に応じたものを選択
振り返り	短期の活動を振り返ることができる	長期の活動を振り返ることができる	活動を振り返り、感想を述べている	活動を振り返り、感想を述べている	活動を振り返り、感想を述べている
習慣形成	学校での生活に慣れる	規則正しい生活リズムを整える	家庭・学校生活に必要な生活習慣を身に付ける	自分の活動の見直しを立てて、自分から行動する	活動の見直しを立てて、自分から行動する
関心・興味	身近な活動や役割に関心をもつ	職業的な役割や活動に関心をもつ	将来についての憧れをもつ	将来についての憧れをもつ	将来についての憧れをもつ
お金(硬貨・貨幣)の使用	大人(教師)と買い物に行く	体験を通して金銭の大まかな理解ができる	地域での観光活動を通して、金銭の価値や取り扱いについて理解する	金銭の価値	金銭の価値
身振りのきまり	社会生活の場面とマナー	教室/学校のルールが分かる	家庭や学校、地域での生活における身近なルールを理解する	社会のきまり	社会のきまり
手洗いなどの目的のある行動	手洗いなどの目的のある行動	手洗いなどの目的のある行動	手洗いなどの目的のある行動	手洗いなどの目的のある行動	手洗いなどの目的のある行動

職業的な生活力

キャリア発達力

自立活動